

115 明治14年6月10日 菊池長閑宛

当月三日付の御手紙拝見御安着の由御愛たし改めての御挨拶にて
気の毒に存す簞笥ハ十七日過に下し上可申古金ハ未だ売口なし

縁談も未だ極らず梅雨ハ既ニ降初め即今ハ日々雨天にて退窟
至極なり御誂の字引の名を忘れたれハ序に御知せ被下たし軍八
さまも近日下る由

明十四

六月十日

武夫

父君